

最後の大学入試センター試験

2020年1月18日、19日に実施された試験をもって、1990年から始まった「大学入学選抜大学入試センター試験」、通称「センター試験」はその幕を閉じた。次年度より「大学共通入学テスト」が始まる。

今年のセンター試験志願者は557,699名(昨年より19,131名減)で、そのうち現役生は452,235名(昨年より12,715名減・全体の81.1%)でした。本校からは69名が志願し、そのうち37名が1月20日(月)の自己採点に参加しました。

1月24日(金)に、約52万人の結果をまとめた中間集計その2が公表されました。地歴・公民・理科②において、各科目間の平均点の差が20点以上の場合に検討される得点調整は、最大平均点差が11.62点であったため、今回も行わないと決定されました。

一般入試はこれからが本番です。体調に気を付けて、自信をもって臨んで欲しいと思います。応援しています!!



教科	科目	受験者	平均点	教科	科目	受験者	平均点
国語	国語	498,15	119.33	数学	数学Ⅰ	5,571	35.95
地理 歴史	世界史A	1,765	51.21	① 数学ⅠA	381,825	51.89	
	世界史B	91,587	62.96	② 数学Ⅱ	5,086	28.40	
	日本史A	2,431	44.61	② 数学ⅡB	339,622	49.05	
	日本史B	160,377	65.45	理科①	物理基礎	20,427	33.29
	地理A	2,238	54.52	① 化学基礎	110,868	28.20	
地理B	142,989	66.35	① 生物基礎	137,301	32.10		
公民	現代社会	73,244	57.30	理科②	物理	153,057	60.69
	倫理	21,191	65.37	② 化学	193,349	54.80	
	政治・経済	50,377	53.75	② 生物	64,563	57.56	
	倫理、政経	48,319	66.51	外国語	英語	518,184	116.32
				リスニング	511,815	28.79	

※大学入試センター中間集計② (一部、掲載していない科目もあります)

【青木智】

高2 小論文講演会 報告

1月15日(水)の3時間目にテレビ放送にて志望理由書の書き方についての講演会が実施されました。そして、4時間目には冬休みの課題であった志望理由書の材料と講演会でのお話をもとにして、実際に志望理由書を書くテストを行いました。

講演会では、まず志望理由書は「①意志提示→②きっかけ→③具体的ビジョン→④社会的意義→⑤まとめ」という流れで書くということ、そして、その全てを他の人とは異なった、自分だけのものを「**具体的に**」書くことが重要ということでした。たとえば、③と④では「好きだから〇〇を目指したい」ではなく「〇〇になり～をすることで社会に貢献したい」ということが自分だけの内容・表現で、具体的に述べられているかどうかが見られているということでした。

また⑤のまとめでは、将来のために志望する理由が、イメージではなく、具体的に調べられているかどうか重要だということでした。つまり、パンフレットやHPだけでなく、オープンキャンパスなどのイベントにも必ず参加し、志望する大学の学部学科のことをよく調べる必要があるということです。



2月19日(水)に今回のテストを添削されたものが返却され、リライト(書き直し)をします。今回、実際に書いてみて自分の考えや調査が足りなかったことを自覚した人も多くいると思います。次回までに、講演会でのお話を参考にしっかりと準備をし、さらに良いものを書けるようにしましょう。



【埜口・鈴木鷹】

「評定平均」を知っていますか？

「評定平均」は大学の推薦入試において、非常に大切なものです。では、「評定平均」とは何でしょうか。間違えて認識している人もいるかもしれませんので、確認しておきましょう。



(1)「評定」とは？

「評定」とは、各教科の成績を5段階で表したものです。みなさんは、年度末の通知表で知ることができます。「評定」は、1年間の定期テストの点数と平常点をもとにつけられています。

(2)「評定平均」の求め方は？

高校で履修した全科目の評定を合計し、その科目数で割るだけです。注意すべき点は、高3だけの評定ではなく**高1・高2の評定も入る**ということです。具体的に、下の表でシミュレーションしてみましょう。

高1では、日本史Aを選択して次のような成績だったとします。なお、科目名は略称で表記しています。

科目名	国総	世史A	日史A	現社	数学Ⅰ	数学A	物理基	化学基	生物基	体育	コ英Ⅰ	英表Ⅰ	社情
評定	5	4	4	4	3	3	3	3	3	5	3	3	4

科目の評定を合計すると「47」です。これを科目数の「13」で割ります。 $47 \div 13 = 3.61\dots$ 。よって、高1の評定平均は「**3.6**」となります。

高2では、理系進学に在籍し、理科は生物、芸術は書道Ⅰを選択。一念発起して、次のような好成绩だったとします。

科目名	現文B	古典B	数学Ⅱ	数学B	生物	体育	保健	書道Ⅰ	コ英Ⅱ	英表Ⅱ	家庭基	社情
評定	4	4	5	5	5	5	5	5	4	4	4	5

評定を合計すると「55」です。これを科目数の「12」で割ります。 $55 \div 12 = 4.58\dots$ 。よって、高2での評定平均は「**4.6**」となります。

高1では「3.6」だった評定平均が、高2では一気に向上し、「4.6」となりました。よく頑張りましたね!

しかし、**評定平均は履修したすべての科目**を使って求めるので注意が必要です。具体的には、高1と高2の評定の合計「42+55=97」を、高1と高2の科目数の合計「13+12=25」で割ります。すると、 $97 \div 25 = 3.88\dots$ 。よって、高2までの評定平均は「**3.9**」となります。

高2で成績が一気に向上したにも関わらず、評定は0.3しか上がりませんでした。このように、評定平均は簡単には上がりにくいものなのです。高1からの積み重ねが大切になります。

(仮に上記の生徒が高3でオール5であっても、評定平均は「4.2」までしか上がりません。)



付属推薦の付属特別選抜や指定校推薦は、**評定平均を出願条件にしている場合がほとんど**です。参考までに、今年度の付属特別推薦(付属枠)の多くは評定平均4.0(前後)以上が基準となっていました。

3学期の定期テストを頑張れば、今年度の評定を上げることができます。十分な対策をして、テストに臨もう! 【金久保】

Topics

防衛医科大研修会報告

令和元年12月22日(日)、防衛医科大学にて、自衛隊東京地方協力本部城東地区隊(台東出張所)主催の研修会が初めて開催されました。対象となった同地区の高校生・保護者・教員で、30名弱の参加がありました。本校からは、生徒・保護者の参加はなく、私(進路主任)と高3理系特進担任の青木(智)先生と2人で行ってきました。

上野駅に集合し、本校担当でもある貝原主任広報官運転のマイクロバスで防衛医大に向かい、高速で降りる所を間違えるというハプニングはありましたが(笑)、何とか定刻には現地に着し、10時から研修会が始まりました。午前中は講話2つで、①加來教授の「感染症の危機管理」、②秋富准教授の「災害医療と事態対処医療」でした。昼食(体験)の後、午後は③シミュレーション・ラボ体験と④施設見学で15時終了というハードな研修会でした。この紙面ですべては伝えられないので、特に印象に残ったことを報告します。

①講話:加來教授の疫学的な感染症クライシスのお話は、今、中国武漢での新型コロナウイルスのアウトブレイクを予言していたのかと思える講話でした。対応を間違えるとパンデミックにも発展しかねないこの状況。果たして日本は水際で防げるのか?そいえば、日本にCDC(アメリカ疾病予防センター)のような組織があったかな?

②講話:秋富准教授の救急医療の講話も生々しく、ドラマのコードブルー(一部監修)の話題も交えた面白いものでした。特に、トリアージの難しさを「声なき声をさがせ」と表現したのは、東日本大震災を経験した秋富先生だからこそのお話でした。南海トラフ巨大地震は必ず起こる。起こった時に、一人でも多くの人を助けるために私たちは何をすべきかを考えさせられる講話でした。

③ラボ体験:ショッキングな映像やターニケット(救命止血帯)の使い方を秋富先生が解説。メインは「外科結び(結紮)」の体験でしたが、開成高校の生徒は上手でした。もちろん私は出来ないので撮影にまわりました(笑)。

④施設見学:「爆傷・衝撃波損傷研究室(写真右)」だけしか見学できませんでしたが、齋藤大蔵教授は物理学の専門家ではなく、現在も医者としても活躍しているのにはビックリです。



加來浩器教授 秋富慎司准教授 爆傷・衝撃波実験装置

【伊藤秀】

お知らせ

今年度も高2の4月、高3の4月および9月に実施する基礎学力到達度テストの過去問題集を校内にて販売することになりました。2月12日(水)に希望冊数の予備調査、学年末試験の3月5日(木)、6日(金)に販売する予定です。販売価格は、高2の4月版が3,500円で、高3の4月/9月版が1教科1,800円、英語のみ2,000円となります。校内で購入すると消費税分がお得です。

Compass 1月号でもお知らせした3月12日(木)実施の「高1社会人セミナー」ですが、18名の講師がすべて決定しました。後日、講師プロフィールをまとめたものをClassiで配信します。2月中旬までに希望調査(2講座)を実施しますので、本校入試期間中にじっくりと考えよう。社会人の生の声を聞いて、これからの人生の糧になればと願っています。

生産工学部高大連携教育

付属推薦で生産工学部への進学が決定した高3を対象に、高大連携教育が実施されました。12月6日(金)から1月17日(金)まで全15回の講座を、本校校舎にて豊山女子高校の生徒と合同で受講しました。

講座の内容は、「コンピュータの歴史」「ワードプロセッサの基本操作」「コンピュータの仕組み」「情報のデジタル表現」「インターネットの歴史」「インターネットの仕組みとセキュリティ対策の基本」「情報倫理」「データ処理」と、多岐にわたっています。学部の先生をお招きしての対面授業や、IP電話で質疑応答しながら進めるe-Learningなど、普段の授業とは違う雰囲気に、生徒たちは少し緊張している様子でした。



教授による対面授業



e-Learning

参加生徒の一人は、「自分は文系生徒なので、4月から生産工の授業についていけるか正直不安です。でも前向きに考えて、この高大連携教育でたくさんの知識を身につけて、いいスタートを切れるように頑張りたいです。」と言い、積極的に教授に質問をしていました。これくらい熱心な姿勢で臨むなら、きっと大学の勉強で困ることはないでしょう。春からが本番です。みなさん頑張ってください。

【竹原】

2月の進路行事

2月5日(水) 日大チャレンジ特別進学模試 (高1・2)

2月9日(日) 河合塾全統記述模試 (高1・2特進)

2月19日(水) 小論文テスト② (高1・高2)

2月22日(土) 高2大学費用講演会 (高2保護者)

月
日
日直

2月5日(水)の日大チャレンジ特別進学模試は、高1・高2が対象となります。試験範囲等はCompass1月号に掲載しました。高1は午前中3科目のテストで、高2は終日テスト(14:05終了)で、地歴公民または理科1科目の初めての実力テストになります。4月・9月の基礎学力到達度テストの模試になるので、スタディサプリやClassiを利用してしっかり準備して臨むこと。

2月9日(日)の河合塾全統記述模試は、高1・高2の特進クラス対象で、「国公立大・難関私大対策」の校外模試です。高1は「記述式」、高2は「記述・論述式」の早期対策となります。まだ受験票が届いていませんが、今年度はどこの受験会場となるのかお楽しみに!

2月19日(水)の小論文テスト②は、3・4時間目での実施になります。高1が講演会(教室でモニター)+テスト、高2が2時間とも志望理由書になります。今回はリライトですので、添削された答案を見て、よりベターなものが書けるように準備しておこう。テストではありませんが、自分の書いたものを見ながら書けるのでしっかりと文章を書けるように心掛けてください。

2月22日(土)13時30分より3階多目的ホールにて、高2保護者対象大学費用講演会を実施します。今年度の高3の進路状況、受験トラブル等を交えながら、付属推薦入試でかかる費用についてお伝えしようと考えています。後日、参加届を配布しますので、参加される方は2月15日(土)までに担任に提出してください。

【伊藤秀】

次回3月号は、2月25日(火)発行予定です